



株マザーズえりあサービス
代表取締役社長

三浦 摂郎 氏

みうら・せつろう 昭和38年東京都生まれ。明星大学大学院修了。米国L&H、米国FRCマネージメント社を経て社会福祉法人仙台キリスト教育児院に勤務。その後同社を設立、保育園を開設し、平成18年東北こども福祉専門学院を開校。

選ばれる保育園を目指し 人材育成に力を注ぐ

株マザーズえりあサービス（仙台市）は民間の株式会社として保育事業に参入し、東北で初めて認可保育園の運営を許可された企業。同社は保育園経営の他、保育士を養成する東北こども福祉専門学院などを運営。質の高い保育士の養成は業界の評価も高い。同社代表取締役の三浦摂郎社長にお話を伺った。

—— 御社の概要をお聞かせください。

三浦 弊社は保育園（認可保育園2園、せんだい保育室A型2園）の経営と学童保育、東北こども福祉専門学院の運営の他、訪問介護・障害者自立支援やベビーシッター派遣などを行う株マザーズありサポート、不動産管理部門の株エリア・コンセプト、福祉コンサルティングの(有)マザーズ福祉研究所、会計管理などを総合的に行う株マザーズ・ロジスティックスの5社体制で子育てから高齢者、障害者までトータル的な福祉サービスを行う企業です。

—— 東北こども福祉専門学院は質の高い保育士の養成で業界でも高い評価を得ています。

三浦 おかげさまで卒業生のほとんどは希望の職場に就職し、活躍しています。保育園の経営は利用者ニーズに応えるサービス業

ですので、より良いサービスを提供するためには質の高い保育士が必要だと思っています。学院は少数精鋭で徹底した実践教育を入れていきますので、即戦力として高い評価を頂いているというのは大変うれしく思っています。

—— 学院は社会人に門戸を開き、入学希望者も増えています。

三浦 働きながら、あるいは子育てをしながら保育士や幼稚園教諭の資格が取得できるよう、資格取得に必要な単位に絞ったカリキュラム構成になっています。当学院の学生は、震災を経て人生観が変わったという人や将来保育園を経営したいと考えている人など「未来を担う子どもを育てる仕事をしたい」という目標が明確で意欲があります。年齢幅も広いのでお互いに刺激になりますし、助け合いながら勉強している環境が良い結果につながっていると思っています。

—— 保育士のニーズが高まっていると伺いましたが。

三浦 少子高齢化で働く世代の人口が減少していく中、社会を支えるためには女性の力が不可欠です。女性が働きやすい社会は結局男性も働きやすい社会ですから、働きながら子育てできる環境、学童保育も含め

0歳児から受け入れられる施設の整備が急務ですし、質の高さが求められると思います。少子化でパイの奪い合いが始まるのは決してよくはありませんが、自分の子どもを保育園に預けるとき、やはり質の高い保育士がそろっている園を選ぶのではないのでしょうか。保育士は子どもに接すると同時に保護者にも接しますから、さまざまな社会経験のベースの上に専門知識が加わることで質の高い人材になると考えています。最近では県外からの求人も増えており、質の高い保育士の争奪戦はもう始まっています。

—— 今後の展開は。

三浦 弊社は現在130人を雇用していますが、人材の質を保ち続けることが大切です。選ばれる、質の高い保育園を目指して弊社では、保育士のスキルアップのために研究会や勉強会などを開いて技術研修を行っています。また、県外からの入学希望者の増加もありますので、現在、学生寮や職員寮となる住宅の提供も計画中です。震災によって人口の移動がありますので、新しいまちづくりにには保育園のニーズも高いと思います。幼保一元化の法制度がどうなるか見極めながら、準備はしておきたいと考えています。